

IPM実践指標（大豆）

管理項目	管理ポイント
健全種子の使用	種子更新及び良質種子の選定を行う。
種子消毒	紫斑病防除のため種子消毒を実施する。
連作回避	べと病、葉焼病、白絹病などによる病害を回避するために連作を避ける。
適正な肥培管理	適正な肥培管理を行い、過繁茂や軟弱な生育にならないようにする。
ハスモンヨトウ対策	フェロモントラップによる発生消長を確認して適期防除を行う。
	圃場における白変葉の発生状況に注意し、散見されるようになったら早めに薬剤散布する。
病虫害発生予察情報	病虫害防除所が発表する発生予察情報を入手・確認し、適期防除を行う。
適期収穫	紫斑病の蔓延を防ぐため、雨に当たらないよう適期に収穫し、速やかに脱穀・調整する。
被害残渣除去	紫斑病、べと病、葉焼病の発生が多かった圃場では罹病植物を適切に処分する。
雑草対策	農薬に頼らない除草を実施する。
農薬使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法検討した上で使用量・散布方法を決定する。
	生物農薬等の天敵にやさしい農薬を利用する。
	農薬を散布する場合には、適切な飛散防止対策を講じた上で使用する。
	農薬を使用する場合には作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で薬剤耐性・抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。
作業日誌	病虫害・雑草の発生状況、農薬の散布履歴、IPMに係わる栽培管理状況を作業日誌として記録する。